

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立南部高等学校

校長名：辻 強志

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）
・学んだことを活かして、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。
・自分の将来に前向きな展望を持って進路を切り拓くことができる人材を育成する。
・地域との連携や活動を通して、仲間や社会とのつながりを大切にできる人を育成する。

学校評価の公表方法
HP による公表。 学校運営協議会等に周知する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組				評価（2月21日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	キャリア教育の充実 地域社会の一員としての自覚をもち、地域の発展に貢献できる若者を育てる。	B	基礎学力を定着させるための補習・個別指導の充実	朝の学習の評価 第1希望就職率は100%か	B	朝の学習について、内容を精査し継続して実施する。	○指導法の工夫・改善が行われるよう委員会で内容についても計画する。 ○関係機関との連携をさらに深めて実施する。 ○進路について自分自身の問題として考えられるよう取り組みを計画する。
			総合的な探究の時間を活用したキャリア教育の実施	振り返りシートの活用 進路目標が明確になったか	B	総合的な探究の時間において、振り返りを行い、内容の充実に努める。	
			進路実現に向けた機会を提供し、卒業後、進路先で適応していける力をつける	進路ガイダンス等の実施回数、面接指導への参加状況	B	1学年よりガイダンスを重ね、進路を意識させることができた。	
2	授業力の向上 インクルーシブ教育の観点から生徒の学習面の課題を理解し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかる、力がつく」授業の工夫に力を注ぐ。	B	特別支援の視点を取り入れた研究協議会等を実施	研究協議会の実施回数 授業の工夫の共有	B	個々の生徒に対応した行動ができるよう情報共有を密に行う。	○教育相談、特別支援体制の充実を図り、インクルーシブ教育をさらに推し進める。 ○生徒1人1人のやる気を醸成するため指導と評価について検討を引き続き行っていく。
			ICTを活用した授業の充実	ICTを活用した授業の工夫の共有化	B	ICTを活用した授業が定着し、より効果的な活用法を検討する。	
			指導と評価の一体化を図る	評価基準を生徒にフィードバックできたか	B	説明責任という観点からも評価基準について生徒と共有している。	
3	マナー・モラルの向上 生徒の生活面の課題を理解し、安全で安心できる社会を構成するひとりとして、規範意識・人権感覚を持った若者を育てる。	B	人権学習の充実	人権LHR・研修会の実施	B	人権学習について、計画的に進めることができた。	○家庭との深みのある連携がスムーズに行われるようきめ細やかな対応を行う。 ○挨拶の大切さをさらに理解させ継続した指導を行う。
			ルール・マナー指導及び命の大切さについて啓発していく	指導件数の推移、あいさつの徹底、講演会の実施回数	A	全職員による声かけやマナー指導を実施した。	
			特別支援の観点での指導支援体制の構築	校内外の指導体制の明確化	A	校外の関係機関(若者サポートステーション等)との情報共有を行った。	
4	学校力の発信 生徒の活躍や本校の特色ある教育を特別活動等を活用し、そして本校の教育資源を地域のみならず全国に積極的に発信する。	B	HP、SNS、マンスリー・農場便りによる情報発信	HP等の定期更新・SNSのフォロワー数、販売来客数	A	積極的にHP・SNS等での情報発信の充実に努める。	○本校の取り組みを広く知ってもらえるように常に情報発信を意識して全職員が行動する。
			小中学校との交流や訪問	交流や訪問の回数、内容の満足度、入学志願者数	B	校内外での生徒・職員の交流がより活発となるよう取り組み内容の充実に図る。	
			地域、企業、大学等との連携	連携の程度と内容	A	地域との連携がより確実なものとなるよう内容の充実に努める。	

学校関係者評価（2月19日実施）

今年度の学校運営協議会は4回実施（5月・9月・11月・2月）した。

1回目はきのくにコミュニティスクールについての説明と学校運営の基本方針及びスクールポリシーについての承認を行い、今後の活動予定に合わせた部会の設立を行った。

2回目は、学校の現状報告と各部会からの活動報告を行った。又、評価部会から学校評価についての意見をいただいた。

3回目は、2回目と同様に学校と部会からの報告を行い、学校評価について具体的な内容を詰めた。

4回目、令和6年度の学校評価についての結果から分析を行い令和6年度のまとめを行った。

成果と課題として、
○域学連携部会からは、防災学習について防災スクールの実施と次年度も引き続き災害発生時の対応について学習する意義はあり、内容を検討したうえで実施したい。
○プロモーション部会からは、人が集まり対話することはこども達にとっても地域にとっても良い刺激となるため、引き続き活動を行っていきたい。
○評価部会からはアンケートの結果を次に生かしていけるよう、問題点を見つけ改善していききたい。
とそれぞれの報告があった。

今回、授業アンケートは評価項目をリンクしたことにより、項目によっては「そうである」「ややそうである」を合わせた前向きな回答が70%を超える部分もいくつかあった。

進捗度Aとしている所はアンケート結果により、生徒、学校関係者、教員の全部又は2つで70%を超えている項目です。